

ビニールハウス栽培における小型電動噴霧器（モーターフォグ）を使っ
ての「うっすらと少なめに」を旨とする少量による葉面散布について

発表者 井澤 治 (株)土佐農機

ハウス栽培において湿度を10～20%上げる程度の水量即ち1反(1000㎡)あたり4～5Lの水量を定期的に葉面散布することで作物の樹勢を促すことができ、それに伴い成果物の品質・収量共に向上し同時にカビや虫の減少に繋がっている体験者が増えています。

作物とビニールハウス天井との空間に向けてモーターフォグを使い週一を基本に夕方「うっすらと少なめに」空間に噴霧します。

従来、ハウス栽培における薬剤や液肥等（葉面散布剤を含む）の散布は一反あたり薬剤では約200～300L、液肥等では約150Lを散布している。この作業は最も体に負担のかかる作業でもあり、その溶液量は植物の葉・枝が濡れる水量になる。シーズン通しての薬剤の使用量も必然的に多くなってしまいう傾向にあり、樹勢が衰える原因の一つでもあると言われている。

栽培期間中、薬剤散布が先行的に行われる時期になると液肥等の散布は疎かになってしまい、また液肥等を散布するにしても薬剤と混ぜてしまうことが多かった。混ぜることで液肥のそれ自体の効果は期待薄であり、むしろ葉や枝が濡れることによって樹勢が衰えてしまい次なるカビを呼び込んでいるという指摘が多かった。

ハウス内の湿度が約10～20%上がる程度の水量、即ち従来に比べ約1/30の水量で「うっすらと少なめに」作物の樹勢を促すことを目的とし、省力的でもあるモーターフォグによる葉面散布をする生産者が増えています。

